

私達の生の声を みなさんに届けよう!

失語症のある人 **参加型** 生ディスカッション



演者 沼尾 ひろ子

朗読家/言語ボイストレーナー/
フリーアナウンサー/TV ナレーター

民放アナウンサーを経てフリーに。TBS「ひるおび!」のナレーション他。文化放送「吉田照美のやる気 MANMAN」等情報番組を三十数年に渡り担当。ニュース、ドキュメント、バラエティなどのあらゆるジャンルをこなし、生放送に対応ができるナレーターとして活躍。2006年突然脳梗塞に見舞われ失語症となったが言語のリハビリの他、アナウンススキルを活かした独自の言語トレーニングを経て放送業界に復帰。復帰の最大のきっかけとなった「フランダースの犬」や、自ら童話を書いて朗読を行う。脳梗塞(失語症)についてひろく伝える活動、失語症の方への朗読教室、言語ボイストレーニングを行う。

「瞬時に渡された原稿を読む生番組」を作りあげることになり誇りを持って携わっていた、そんなある日突然、脳梗塞を発症。

目が覚めた私を待っていたのは、失語症でした。

自分の名前すらわからない。周りが何を言っているのかよくわからない。雑誌や新聞の文字が頭に入ってこない。文を声に出して読むこともうまくできない。テレビを観てもわからないし、メールも打てない。何か伝えたくても、言葉が浮かんでこない。他の人には意味がわからないことを話しているのかもしれない。私は自分が馬鹿になってしまったと思いました。これからどうやって生きていけばいいのか。

もう大好きな仕事はできないんだとわかっていながら、認めたくない自分もいる。そんなつらい気持ちを訴える言葉が迷子になって伝えることもできず、みじめで、行き先もなく真っ暗闇の海を漂うような日々。リハビリはさらに駄目な自分を再認識させられる場でもありました。つらくて、一度全部やめてしまいました。人生のすべてをあきらめかけた私に、朗読が言葉で伝える喜びをもう一度気づかせてくれました。そして、自分の人生は誰も変わってくれない、自分で背負っていくしかないんだと覚悟を決めました。その人生を歩い

ていくと決意してから、「あれもできない、これもできない」が「これできる!こうすればできる!」に変わりました。

言葉を使うコミュニケーションが困難な「失語症」が、多くの方に理解されないのはある意味当然です。「思い」を伝えることが困難なのですから。

「言葉が出ないのね」「ぜんぜん気にならないよ」。そんなふうに声をかけてくれると、違う違う、そんなやさしいことじゃない!と、声をはりあげたくなる。でも、その言葉が出てこない。情けなくて涙が出る。知識は全部頭の中に残ってるのに。

この日、私たちの生の声を伝えます。
一緒に笑顔で生きていける世の中になることを願って。

無料

先着 100名
事前申込不要

日時

2021年 **6月19日(土)**
17:05 ~ 18:35 ※16:00より受付開始

場所

ウイंकあいち 2F 大ホール
(愛知県産業労働センター)
名古屋市中村区名駅 4-4-38



市民公開講座に関するご案内
サイトはこちら



<http://www.congre.co.jp/jasht22/shimin/>

新型コロナウイルス感染予防のためのお願い

- 体調チェックシートの記入後、ご入場ください
- 入場時の検温の実施にご協力ください
- 手洗い・手指消毒にご協力ください
- 他のお客様とは2mの距離を空けてください
- マスクの着用をお願いします
- 大声での会話はご遠慮ください